

# 穴水町「雪中ジャンボかきまつり2020」での運営サポート

団体名●池田ゼミナール、野外スポーツ部／代表者名●池田幸應(人間科学部教授)

## はじめに

穴水町では、地域の特産物を活かした「まいもんまつり」(春の陣「いさごまつり」、夏の陣「さざえまつり」、秋の陣「牛まつり」、そして冬の陣「かきまつり」)を実施している。「まいもん」とは、「美味しいもの」という能登弁で、春夏秋冬四季折々の旬の能登の味覚(まいもん)を提供することを目的としている。地域の過疎高齢化に対し、地域資源を活かしたイベント、情報発信により、関係人口の増加を視野に入れたものであり、毎年、県外からも多くの観光客が訪れている。このうち冬の陣「かきまつり」における「雪中ジャンボかきまつり」の運営については、本学は穴水町と連携協定を締結しており、本学の地域連携活動の一環として継続的に参画している。本稿では、そのうち、冬の陣「雪中ジャンボかきまつり2020」について記述する。

## 活動内容

今年の「雪中ジャンボかきまつり2020」は、2020年2/8(土)・9(日)に実施され、約2万人以上が来場し、穴水町の「牡蠣」や他の特産物を味わった。このイベントとして、1/11(土)に高岡市、翌日に金沢市において「かきまつり出向キャンペーン」も実施されており、500名以上に無料で焼き牡蠣が配布された。これらは毎年恒例となっており、イベント運営には池田ゼミナール学生20名が、祭り本番には池田ゼミナール及び野外スポーツ部学生合計52名が参画している。

### (1)「かきまつり出向キャンペーン」

1/11(土)、高岡市旧「大和」前の商店街通りにおいて、及び1/12(日)金沢市「アトリオ」前広場において、穴水町企画調整課職員と池田ゼミナール学生と協働で焼き牡蠣約1,000個及びチラシを配布し、穴水町の職の魅力の情報発信を行った。なお、高岡会場では、約200mの順番待ち行列ができ盛況であった。



写真1 能登島での伝統的な塩作りの調査

### (2)「雪中ジャンボかきまつり2020」

2/8(土)、9(日)、穴水町役場から近隣のあすなろ広場「特設会場」において、総計約400mのかき焼場及び複数の地元の農林漁業関連店舗が開設され、例年通りの大賑いであった。運営には、穴水町役場職員総出で、地域の各種団体や石川県立穴水高等学校生徒も参画しており、町外からは、本学学生52名の運営サポート、そして町とも連携協定を結んでいる大妻女子大学がブース出展を行っていた。

## 成果、結果の考察

毎年継続的に穴水町の一大事業である「まいもんまつり“冬の陣”かきまつり」の運営スタッフとして、会場確認及び事業に参画することにより、その事業運営のより円滑な運営に繋がり、会場への来場者との対話を通してコミュニケーション能力の向上にも繋がっている。

## 今後の課題、展望

本活動では、主として「雪中ジャンボかきまつり2020」関連のイベント的内容に留まっており、今後、地域活性化策への具体的活動につなげたい。